

# 日風堂周

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第47号

2003年3月31日

## おばやんの四つの道

高知県立歴史民俗資料館資料調査員 池田 光穂

現在開催中の企画展「おばやんの知恵袋」では、農村の暮らしが、女性の視点で語られるところに面白さがある。だが、おばやんの語りの面白さは、それだけではない。

おばやんは四つの町や村に暮らし、そこでいろんな道を歩いてきた。

おばやんこと小川真喜子さんの生まれは、高知県高岡郡日高村。尋常小学校四年の時、高知市に引っ越す。結婚後大阪に足かけ六年暮らし、その後五十余年、現在の住まいでもある高知県吾川郡春野町に暮らしている。

この文章では、おばやんが暮らした四つの町や村を中心に、おばやんが歩いてきた道にまつわる語りを紹介する。

幼少期の語りに登場する道は、現在の国道三十三号線の前身、県道松山—高知線である。おばやんの家は、この道沿いにあった。ちょうど、現在のJR岡花駅付近である。この道を通じてやって来る行商や兵隊、旅人についておばやんは語る。「ヨウリ」と呼ばれる魚の行商や、かんざしなどの行商、また、鉄くずと鉛玉を交換してくれる

「アメシヤラ」と呼ばれる人がやって来た。

尋常小学校や高等小学校時代の語りに登場する道は、現在の高知駅の駅裏や愛宕商店街のあたりである。幼少期と異なり、自分の足で歩き、そこで見たものについて語る。当時のおばやんは「兄がかり」となっていたので、兄の子供を背負い、愛宕に建ち並ぶ商店を見て歩いたようだ。当時、町にはいろんな店が並んでいたと言う。傘の骨に紙を貼る傘屋、ピーツと笛を吹きながら通る鉛細工の職人、本屋、煮菜屋を見た。

結婚後の大阪暮らしでは、特にこの道というわけではないが、あるおんちゃんとの出会いを語る。ある時、道に迷ったおばやんは、通りすがりのおんちゃん

に声を掛けた。すると、「ねえさん、高知かよ」と土佐弁の声が返ってきたと言う。おばやんは、この時自分が土佐人であることを自覚したと語っている。

最後に、おばやんが語ったもうひとつの道にふれて終わりにしたい。

「道は道として通れ」とおばやんは母・鹿衛さんから教えられた。ここでいう「道」はこれまでの道ではなく、人生を意味している。どれほど遠回りする道でも、道なのだから、その道を歩かなければならないのだと言う。遠いから、または道がぬかるんでいるからといって、道の無いところを歩いたり、近道をしてはいけないという意味だとおばやんは語ってくれた。



春野町西分の白衣観音堂へお参りするおばやん(右)



## 高知の街遊び談義

郷土玩具・山崎 茂さん  
おばやん・小川真喜子さん

山崎茂さんは郷土玩具の収集家で、昨年は、当館の企画展に一五〇〇点以上の郷土玩具を出品いただきました。

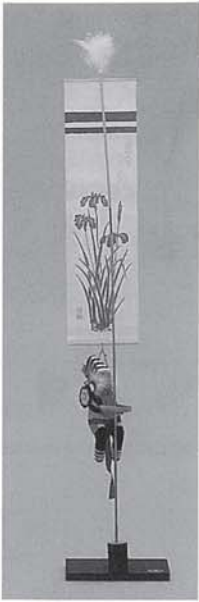
小川真喜子さんは現在開催中の企画展「おばやんの知恵袋」の主人公です。

お二人とも大正九（一九二〇）年生まれの八二歳で、ともに少女時代を高知市で過ごしました。それぞれ一つのこと長年打ち込んできたお二人に、その頃の思い出を聞きました。

小川 この間は猿のお人形を頂きまして、ありがとうございました。幟のぼりには「日本一」、しよう大きいことよねえ。

山崎 僕らふたりとも申年さるやもんねえ。あれは、「のぼり猿」いうて、僕が郷土玩具を集めるきっかけになった人形です。それはそうと今度の展示に、おさる人形いうてありました。飛驒高山の「さるぼほ」によう似ちますねえ。

小川 あれは私が縫いました。ああいうもんを作つて、昔は遊うだわねえ。



のぼり猿（宮崎県）

## 幼い頃の遊び

小川 私は産まれてから日高で十年、高知市では十年過ごしました。

山崎 僕の家は高知市の中島町通りにありました。高野寺こうやじの境内によう遊びに行きましたよ。広がったきね。子どもら走りまわつておりました。本堂の入口に鈴があつて布がいつぱい下がつちりまするう。僕らターザンじゃいうてぶら下がつて怒られました。それから、日曜日には子どもらだけ七、八人で、鷺尾山わしおやまや五台山へ歩いていつて遊びました。弁当もつて棒きれさげて、戦争ごっこをようしたね。

小川 学校の反省会では、「道草はしないでさつさと帰りましょう」いう。けんど帰りの面白いこと。行きつ戻りつよ。友達と別れる辻へ来て、油断してる子の背中叩いて「お土産三つ、たこ三つ」いうて逃げる。そしたら追いかける。

山崎 タイミングようやらないかん。さよならの挨拶やね。  
小川 靴やら草履ぞうりやらをポンと蹴けり上げて、「雨か日よりか言うとうせ」

山崎 そのまま表向いておつ

たら晴れじゃと、ひっくり返つちよつたら雨。女の子はよう縄跳なわとびびしよりましたの。

小川 一寸いっすんもしました。一寸、二寸と上げていつて終いには一メートルばあの高さを飛ばないかん。おじやみもしたよ。

山崎 男の子は野球をやりましたね。ゴム鞠まじで、手をバット替わりに打つたり。高知城の北のスベリ山が遊び場で、家に帰つたらカバンを放つてよう遊びに行た。勉強めいけんらしませざつたぜよ。パン（メンコ）やらピン玉もしたね。パンは長方形の紙に俳優の絵らが印刷されちよる。ホンクいうて勝ち負けで本当にピン玉やパンをやりとりする。ウソクは勝つても戻す。偉い奴はポケットにジャラジャラいうばあピン玉を入れちよつた。ピン玉やらは駄菓子屋だかしやで買いました。

小川 駄菓子屋には、「はぎ」いうのもあつた。紙のくじを引いて、表面の紙を剥はぐと何番とか書いてある。景品は上にいくほど大きくて下が小さい、当たつたら大きいのをくれる。一銭やつたね。

山崎 割菓子わりがしいうて、砂糖の菓あま子に瓢箪ひょうたんとかの型が刻まれている。その形をきれいに崩くずさんように外枠をはずしていく。瓢箪も下はしよいけど、口のところ折れやすくむずかしい。うまくできたら大きい奴やつをくれた。それも一銭。お菓子にはシウガ板しゅうがいたやら豆板まめいたやらがあつた。

小川 毎日一銭貰あめうたね。一銭の飴あめもあつた。割り箸わりしほをくるくる回してつける飴

よ。夏は駄菓子屋のかき氷が楽しみ、イチゴや雪（みぞれ）をかける。洋食屋

いうて、今のお好み焼き屋もあつた。刷毛はけでソースを塗つてくれたもんよ。

山崎 年末に家で餅搗もちつきいて、子どもがよそへ配つたらオトメいうてお金入れてくれた。それを集めるのが嬉うれしかった。

小川 餅搗もちつきいたら近所に配る。杵きねの音のする範囲よ。隠しけにならな（隠すことができな）。良きこと悪しこと餅で済ませた。

街の賑にぎわいと映画談義

小川 今の日曜市にちようしいうたら追手筋おてすぢでしょう。私が高知市で暮らしていたころの日曜市は帯屋町おびやまちだつたと思います。

山崎 そうそう。帯屋町が本筋で、追手筋おてすぢいうたら人通りも少なかつたね。

小川 はりまや橋の北側の電車路の東側が種崎町たねさきまちで商店街でしてね。西側は京町の商店街でした。京町に世界館せかいくわんいう映画館えいがくわんがありました。あの頃、入場料が四〇銭やつたと思います。結婚する前にあの辺りを実家の兄と姉の主人が、「男が遊ぶ所を見せておかないかん」いうて連れて廻まわつてくれました。

山崎 美人小路めいじんせうじいうて飲み屋街のみやまぢがありま



小川真喜子さん



したぜよ。

小川 橋を渡って電車路の向こう側にあつた大山館は洋画が多かつたですねえ。

山崎 世界館に有名な弁士がおつて、「さすがのライオンもターザンの敵ではなかつた」いうてやるんですよ。弁士は隅の方におつてね。なかなかうまかつた。一所懸命みたもんです。映画館や芝居小屋には警察官が座る席があつて、何かいふこと言うたら、「中止、中止」いうて三回いうてやめざつたら検束ですと。

小川 私らの時にトーカーが始まつたですよ。キセルで煙草盆叩いても音が出るぞというようなことをいいました。それから鳳館いうてあつた。鳳館はチャンバラが多かつた。鳳館はその時分、二〇銭ばあじゃなかつつろるか。大山館は三〇銭やつたと思います。

山崎 二階の席の値段が高かつたですよ。小学生は映画観てもかまわんが、中学生になると男女間に厳しかつた。女学生にラブレター送つたり一緒に歩いたりしたのがわかつたら、「右の者不都合な行為あり、無期停学に処す 本校」いうて掲示板に貼り出されました。

ほんで映画に行くのも禁止じゃつたが、僕の行った高知商業は休日の昼間は映画行ってよかつた。



山崎茂さん

映画が好きでねえ、三館梯子したこともあつたよ。その時分、フランス映画が全盛時代でね。「舞踏会の手帳」ら良かつたねえ。

小川 あたしも映画が好き。「乙女の湖」いうて観たねえ。

山崎 中島町には堀詰座、高知座いう芝居小屋もありました。レビューも来るし芝居も来るし、浪花節や万歳、マジックも来たよ。選挙演説らもやつたね。

小川 いろんな集會や講演にも芝居小屋が利用されたね。芝居小屋が集會所じやつたと思いますね。私らおとぎ話の會で話を聞きによく芝居小屋に行つたよ。後になつて城東中学校（今の追手前高校）の講堂が、講演会なんか利用されるようになったね。お祭りらあには、トントンリュウリュウ、トシリユウリュウいうて、花台が行つたぞね。見上げるばあ高い。

山崎 胡弓と太鼓と笛でね。祭りには摘み絵いふものも並ぶ。みな自作じゃが、四十七士いうたら綿で雪作つて見事なものがあつたよ。いい作品には賞金が出た。小川 お祭りには「のぞき」いうのもあつたね。徳富蘆花の「不如帰」の武男と浪子がのぞきになつちやつた。

山崎 レンズを覗くと中に絵があつて見えて、弁士がついちよつて説明する。新京橋にもものぞきが出ちやつた。街には、ボンネットバスが通つていたが、人力車もまだあつたよ。街の角に立て場があつて、客待ちしよつた。

小川 人力車での嫁入りを見たね。下から見上げた花嫁さんは、まっこと綺麗やつた。子どもが翌朝行つたら嫁さんが女の子には花のついたピン留めや指輪、男の子にはパンらあをお土産にくれた。ほん

で子どもが玄関に立てつて待ちよつたよ。山崎 高松で宮内ふささんらが作つていた嫁入り人形がそういう人形でした。小川 今晚泊まつて話さないかんばあ、話題が尽きん。果てがないね。

### 土佐の民具10

## 自在カギ

坂本正夫

囲炉裏の上に天井から吊し、鍋や鉄びん、釜などをかけるカギ（鉤）。かけた容器を自由に上下できるので、火力の調節が容易です。

古くは梁から下げた繩の端に、カギ形の本をつけて鍋などを吊していたが、後に繩の代わりに棒が使用されるようになり、その自在棒には竹を用

い、カギには梅やグミの木、サルスベリ、桑などの堅木が使用されていたが、後には棒、カギとも金属製のものが多くなり、カギを調節して上下させる魚型のは、タイ（鯛）とかコザル（小猿）と呼ばれ、松材を使用することが多かつたが、長方形や船形のものもありました。

元来、囲炉裏は神聖な火をつかさどる場所でした。その囲炉裏の上に吊された自在カギは、火床と天空を結ぶ役を果たす家の神の依り代とも考えられていました。そのためか自在カギについては「動かすと貧乏する」「揺する

と恵比寿さまが嫌う」など俗信が多い。また、物を置き忘れたとき、自在カギに藁しべを結び、「出してくれたら、解いてやります」と唱えると出てくるといわれていたが、これは自由上げ下げできるカギの機能に注目した発想だと思ひます。

私が子供の頃には、どの家の囲炉裏にも自在カギが吊されていました。その自在カギの手入れは主婦の仕事であり、つややかなあめ色に輝く自在カギは主婦の誇りでした。目をしょぼつかせながら、囲炉裏の火を囲んだのはもう遠い昔の思ひ出です。



自在カギのかかる囲炉裏（歴史館の民家）



# 歴史館のうら方紹介

資料整理編

野本 亮

博物館の職員といえば、すぐ連想されるのが学芸員ですが、学芸員だけでなく博物館の運営がなされている訳ではありません。

歴史館の「おもての顔」といえば学芸員の他に、受付業務と展示解説などを行う解説員さんや、カフェレスト菜の職員がいます。また、最近では体験学習的な催しにはなくてはならない存在となっているカルチャーサポーターの皆さんも、「おもての顔」になりつつあります。

一方で、直接お客様とは接することの少ない、いわば「うら方」に徹する職員もいます。予算をすみやかに、そして的確に執行する事業課の職員や、岡豊山の木々の手入れを行う公園管理、館内の電気設備の管理、警備担当など、いずれも人目につかない所で歴史館をしっかり支えてくれています。

さて、学芸員の最も重要な仕事の一つに、県民の皆様から寄贈・寄託していただいた資料を有効に管理保存していくための整理作業があります。

通常、資料が搬入されますと、汚れを落とし、カビや虫を除去するために

燻蒸くんじょうを行います。次に資料の現状写真を撮り、実測をし資料一点ごとのカードを作らなくてはなりません。この資料カードがあつてこそ、単なるモノではなく付加価値を有した「博物館資料」になり、高知県の県有財産になる訳です。資料があるのにカードがないということはあつてはならないことです。

とはいえ、一度に膨大な量の資料が搬入されますと、たった六人の学芸員では如何ともし難く、開館以来、常に未整理資料との格闘が続いています。

この未整理資料を速やかにカード化し館蔵資料目録を刊行するために、非常勤という立場で我々学芸員をサポートしてくれる職員が数名配属されています。そのおかげで堀見家や寺石正路関係の資料整理が相当進みました。

また、今年度は国の緊急雇用対策予算で四名、さらに昨年度移管された懐徳館資料整理要員として一名が臨時職員として加わり、数百点の未整理資料が一気にカード化されました。

収蔵された資料群に光を当てるため、今日も地道な作業が続きます。



猪野、尾崎、福富（左から）。臨時職員として民俗資料や堀見家資料、懐徳館移管資料の整理にたずさわりました。



左から佐藤、高松、久保。写真、古文書、絵葉書などの整理をお手伝いしています。



刀剣類の調査風景

## 資料から見えるもの

高松 恵

私は、これまでに竹村・西村・堀見家などの資料整理または解説を担当しました。その経験を通して、私は特に「人の視点が、資料に秘められた幾多の情報を導き出す事のできる力である」という事を学びました。

例えば、資料の記載内容に視点をあててみると、その時代の気象や出来事あるいは筆者の個性・感情などがみえてきます。

また、資料の品質や素材に視点をあててみると、当時の生活に使用したものや流行のもの、さらには生息していた植物や動物までもがみえてきます。

ここで紹介できるのは視点の一片にすぎませんが、このように二つの視点だけでもいくつもの情報を得ることが出来ます。

つまり、資料のおもしろみを引き出すのは人の視点が一役になっているのです。おもしろいものです。  
(二元 非常勤職員)

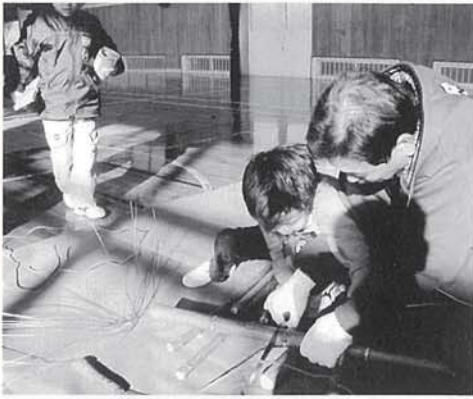


## 「むかしあそび」

一月十八日(土) 高知市立一宮東小学校一年生の参観日に「一日先生」として参加しました。

昨年の夏より、PTAの役員の方と歴史館カルチャーサポーターとの打ち合わせを行い、昔あそびのメニューを考えました。子ども達に、「遊び道具はどうやってつくるの」と聞けば、「玩具屋さんで売っている」という答えが現代の子どもの現状なので、自然のなか、身の回りにある物を利用して玩具をつくるメニューを計画しました。

当日、体育館に折り紙(男子は兜・女子は帽子)、竹馬、つきてっぽう、土佐凧、ワラ縄(ワラ相撲の縄づくり)



竹馬づくり

それぞれの遊び場を作り、一日先生のカルチャーサポーターから指導を受け遊び道具を作り始めました。

ワラ縄いでは、全て初めての事ばかりで上手にいきません。小さな手で悪



ワラ縄い

戦苦闘、でも慣れてくると縄が少しづつ伸び始めました。そして、歴史館からカルチャーサポーターが作ったワラ相撲用の縄で相撲大会が始まりました。手を使わず、体をくねらせ相手を動か



ワラ相撲

せば勝負あった。カルチャーサポーターの先生からコツを教えてもらいながら懸命に体をくねらせていました。

最後に、グラウンドで一年生が描いた絵の張られた土佐凧上げを行い、カルチャーサポーターの「一日先生」を終了しました。

後日、一年生の心のこもったお礼の手紙が送られてきましたので紹介します。(一年生全員から送られてきましたが、紙面の関係で一部を紹介いたします。)

しりょうかんのかたへ

きょうは、むかしあそびをおしえてくれてありがとうございました。

きょうはたのしかったですよ。一ばんおもしろかったのは、おりがみでした。ちらしでつくったひこうきをとばしたり、ふうせんでおかさんとあそんだり、とてもおもしろかったです。

それと、さいしよ、じょうずにのれなかつたけうまが、じょうずにのれるようになったから、いまはすごくうれしいです。

また、あそびたいわう。

参観日に参加した保護者の感想も送られてきましたので、紹介します。

日頃から、買ってきた玩具で遊んだことのない子ども達が身近な物で、手

作りでこんなに楽しく遊べることを教えてくれ、良い経験をさせていただきました。

今、カルチャーサポーターは新たな学校への対応を模索中です。今回は、身近な物から遊び道具を作ることにテーマをおき、昔遊びに取り組みました。今後、様々な学校の要望に対応できるように準備を進めなくてはなりません。

カルチャーサポーターは子ども達が大好きです。だから、明日を担う子ども達に郷土の文化や伝統を伝えなければと使命感に燃えています。ワクワクワークと併せて、カルチャーサポーターの活躍に期待するところです。(泉)



一宮東小学校1年生とカルチャーサポーター



考古

安田町第二十七番札所神峯寺



神峯神社 燈明巖

と青白く光るといふ。巨岩はこの周辺にも幾つかみられる。この岩陰は、修験窟ではないかと思われた。再度、調査を約束して山を降りることにした。(岡本)

歴史

安田町神峯神社

県保護有形文化財(昭和三十年八月)



神峯神社

神峯寺から長い階段を登り、やつとのことで社務所までたどり着いた。額にかいた汗を吹き、社殿を見上げると、立派な石垣が迎えてくれた。社殿へ登る階段の左右の石垣に高さ、幅とも二m余りもある巨石が使われている。山里から運びあげたとは考えがたく、周辺の巨石を石垣に用いたのであろう。再建当時、工事に携わった人々の苦勞が偲ばれる。

階段を登り社殿の前に立ち、目に飛び込んできたのは灯明台の代わりに置かれていた砲弾であった。誰が、どんな思いで奉納したのであろう。

社殿は独特な建築様式で、本殿・幣殿・拜殿を兼ねた入母屋造り、神峯寺の奥の院と考えられていたことから、仏堂といっても違和感はなかった。

破風の彫刻、こけら葺き、鬱蒼と茂る樹木にとけ込み、荘厳さをかもし出していた。帰路、眼下に広がる太平洋がより蒼く見えた。(泉)

民俗

資料調査員による民具調査継続中



資料調査員の橋本雄幸さん撮影の民具

当館では、県内二九人の方を資料調査員に委嘱し、さまざまな資料調査を助けて頂いておりますが、昨年度から5回計画で、民具調査を始めました。この調査は、実際に民具を調べてもらうものではなく、館が送った民具のスケッチを見てもらい、その名前や使い方を聞くものです。

民具といえば、どこの土地に行っても同じと思われがちです。実際そういう場合もありますが、モノによつては地域によつて名前が違っていたり、隣町で使われていない道具がある町では使われていたりしますし、また農村・山村・漁村でももちろん違いがあります。この調査では、そのような県全域の概要を知る手がかりとして、1回目は灯りや暖房具など生活の道具、2回目は食用具、3回目は農具について調べていただいています。調査員の方々からはくわしい回答が届き、大いに勉強になります。

調査結果は、館蔵資料の整理に活用されるのはもちろんですが、県内の民具の収集調査に役立て、まとまった成果にして後世に残したいと考えています。(梅野)



**ニュー**  
館のホームページ  
リニューアル

当館のホームページ、トップページを全面更新しました。

新ページは、岡豊山の風景をバックに赤い館のシンボルマークが浮き上がってきます。そして間もなく最初のメインページが表示されます。このページは利用しやすくするため、二つのフレームから構成しました。左フレームに各メニュー一覧をまとめ、索引として使っていただけにように工夫しました。メインフレームは企画展等の最新情報を中心に、利

用頻度の高いと思われる項目を重点的に掲示しています。

ホームページへのアクセス数も三万三千件を超え、年々館の情報発信源としてホームページは重要性を増してきていると感じています。トップのページ以外も順次旬の情報を盛り込んで更に見やすく、充実したページにしたいと思っています。



(曾我)

**ニュー**  
岡豊城跡・旧味元家住宅  
主屋パンフレット完成!

総合的な学習に活用できる学校向けの見学用教材として岡豊城跡・旧味元家住宅主屋のパンフレットが完成しました。オールカラー22ページで、まず、岡豊山の歴史的環境(長宗我部元親)について概説、続いて昭和60年以來の岡豊城跡発掘調査にもとづいて、山城の構造や出土遺物を解説し、公園内に移築した東津野

村の民家(登録有形文化財)の間取りや暮らしについても掲載しています。これまで岡豊山のパンフレットは無かったので、このパンフレットを自主的な学習に役立ててください。なお、内容は当館HPでご覧になれます。

(梅野)



**特報**  
今夏に特別展開催決定!

「あの世・妖怪・陰陽師  
——異界万華鏡——」

7月19日(土)〜8月31日(日)

この展示は、一昨年の夏国立歴史民俗博物館で開催され好評を博した「異界万華鏡」のエッセンスを巡回するものです。

「異界」とは、この世でない、もうひとつの世界のこと。死後の世界、妖怪、幽霊、人知のおよばない世界を予測する占いなどはいずれも「異界」の領域に属するといえるでしょう。この展示では、さまざまな「異界」を万華鏡のように展覧します。

展示する資料は、地獄・極楽の絵、幽霊画、妖怪絵巻、妖怪絵本、幽霊や妖怪を描いた錦絵、陰陽道関連資料など、いずれも高知初公開の珍しいものばかり。この展示のために、国立歴史民俗博物館が製作した河童想像模型や安倍晴明が外道を調伏する様子の模型も展示し、雰囲気盛り上げます。

巡回する資料は国立歴史民俗博物館の資料のみなので、重要資料については当館が独自で借用し、歴博開催時のレベルに近づけます。

また、「土佐お化け草紙」「土佐化物絵本」「いざなぎ流資料」など、高知県の異界資料も展示し、巡回資料とあ

わせて紹介することで、高知県の文化についての理解を進めます。

体験できる江戸時代の「からくり的」を復元、民話おもちやとともに子供たちが楽しめるコーナーを作ります。

関連事業として、「異界万華鏡」を企画した歴博助教授の常光徹先生に「異界と妖怪」と題した講演会を7月26日に、「民話の家」の市原麟一郎さんに紙芝居による「土佐のおばけ話」を7月20日、8月2、16、30日に、また県立美術館ホールで怪談映画大会も予定しています。

代表的な資料やくわしい内容は次号で紹介いたします。どうぞご期待下さい。



百鬼夜行絵巻 (国立歴史民俗博物館蔵)





## 新刊

企画展示解説資料集  
春野町根木谷  
小川真喜子さんが語る

## おばやんの知恵袋

開催中の企画展「おばやんの知恵袋」の展示解説資料集です。展示では紹介しきれないおばやん・小川真喜子さんの語り、著作、写真を多数掲載。読み物として楽しめる一冊です。A6版、208頁

頒価 1,000円 (送料310円)

館受付で販売中。郵送希望者は送料とあわせて現金書留か口座振替でお申し込み下さい。

口座番号 01610-2-61369  
加入者名 高知県立歴史民俗資料館

月・日	主な出来事
1. 17	企画展「おばやんの知恵袋」開幕
1. 25	展示室トーク①
2. 22	展示室トーク②
2. 13	企画コーナー「おひなさま」開始
3. 8	土佐民話の家⑩春野の話
3. 9	企画コーナー「おひなさま」終了
3. 11	企画コーナー「はりまや橋」開始
3. 15	こんにやくを作ってみよう
3. 22	展示室トーク③

### <ひとこと>

- おばやんの展示室トークには、1回目73人、2回目112人もご来場頂き、2回目は展示室での解説は断念しました。おばやん人気にビックリ！（中村）
- 一時は3人の資料整理の臨時職員でにぎわっていた工作室も今はひっそり。また新年度の新メンバーにも期待しています。（野本）
- 夏の「異界万華鏡」の準備にまっしぐら！のはずなのですが、なかなか着手できず、頭の中にお化けが出没する毎日です。（梅野）

岡豊風日（おこうふうじつ）第47号  
平成十五年三月三十一日  
編集・発行 高知県立歴史民俗資料館  
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1  
TEL 088-862-2211  
FAX 088-862-2110

開館時間 午前9時～午後5時  
（入館は午後4時30分まで）

休館日 毎週月曜日（祝日及び振替休日）  
にあたる場合は翌日）12月28日  
～1月4日、臨時休館日あり

入館料 通常期（常設展）大人（18歳以上）  
450円・団体（20人以上）300円

無料 高校生以下、高知県及び高知市長寿  
手帳所持者、療育手帳・身体障害者  
手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・  
被爆者健康手帳所持者とその介護  
者（1名）  
印刷・鶴飛鳥

http://www2.net-kochi.gr.jp/kenbunka/rekimin/  
E-mail:rekimin@tosa.net-kochi.gr.jp

## 平成15年4月～6月の催し物

### 企画展

## おばやんの知恵袋

5月25日(日)まで



母から子へと伝えられてきた暮らしの知恵の数々をひとりの農村の女性が語る企画展。

「おばやん」の知恵が今静かなブームを呼んでいます。

### 特別企画

## 5月3日(土、祝)は歴民の日

今年もやります 入館料無料!

- ①歴史クイズ(参加賞があります)
- ②常設展示に新コーナー(「遍路」「はりまや橋」)
- ③重要資料を特別展示
- ④おばやんの知恵袋

[展示室トーク] 午後2時～3時

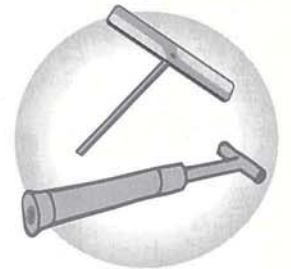


### [ワクワクワーク]

## 竹で遊ぼう

5月4日(日) 午前10時～12時

竹でいろいろなものを作って遊びましょう。  
(会場:移築した民家)



<ワクワクワークは電話かEメールでお申し込み下さい>

### 史跡めぐり

## 町並ウォッチング⑧ 伊野町

5月17日(土)

<専用の申込書をご請求下さい>

### 予告

特別展

あの子・妖怪・陰陽師

—異界万華鏡—

7月19日(土)～8月31日(日)